

幾代会 5月観察会のまとめ

- ◆日時 2025年5月4日（日）
- ◆散策場所 二俣尾駅～即清寺（担当：平、太田）
- ◆集合 10時5分、JR 二俣尾駅（海禅寺側の階段下）
- ◆参加者 梅田、太田、斉藤、櫻井、須崎、平、北澤（ゲスト）、須田（ゲスト）計8名
- ◆ポイント 海禅寺と愛宕神社で春の植物を観察、吉野山園地と即清寺の樹木を確認
- ◆コース JR 二俣尾駅 → 海禅寺 → 愛宕神社 →（愛宕神社の拝殿に向かって東側の山道）→ 吉野山園地（昼食） → 即清寺（13時40分頃解散）

＜二俣尾駅から海禅寺へ向かう線路沿いの道＞

カラムシ（昔の人は茎から取れる繊維で糸を作り、布を織った）、ノゲシ（トゲが痛くない）、オニノゲシ（トゲが痛い）、カスマグサ（カラスノエンドウとスズメノエンドウの間の大きさ）、アオツツラフジ、ヤエムグラ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ユウゲショウ、アメリカフウロ（花がゲンノショウコに似ている）、ヘクソカズラ、ヤマフジ、クサノオウなどの野草を観察した。



＜海禅寺＞



シャガ、シャクナゲ、セッコク、マンリョウ、クスノキなどを観察した。

海禅寺のクスノキ

昭和56年6月に青梅市天然記念物に指定される。

幹回り3.4m、樹高27m

クスノキは暖地の植物であるため、西日本には巨木も多いが、関東地方内陸の山間地にこのような大木があるのは珍しい。木全体に良い香りがあった、虫よけの樟脳を取る木とされてきた。弱った枝を自らが落とす「自己剪定」を行うため、すっきりとした姿をしている。また、クスノキが持つ香りは他の植物の発芽や成長を抑える働き（アレロパシー）を持っている。

<愛宕神社>

愛宕神社のツツジはすでに見頃を終えていたが、咲き残ったツツジを観察しながら「蜜標」（ガイドマーク）について解説した。ツツジの花弁に見られる斑点状の模様は、蜜を求める昆虫に蜜のありかを教える「蜜標」。これによって花に潜り込む昆虫によって受粉ができるように雄蕊がついており、雌蕊の柱頭は蜜標のある方に曲がっている。

<吉野山園地へ向かう山道>

ハンカチノキ、グミ、ネコノメソウ、アラカシ、クロモジ、コクサギなどを観察した。

<吉野山園地>



幾代会の越前さん作成の「吉野山園地樹木マップ」を見ながら、コナラ、リョウブ、エゴノキ、アカシデ、ヒノキ、アカマツなどの樹木を確認した。



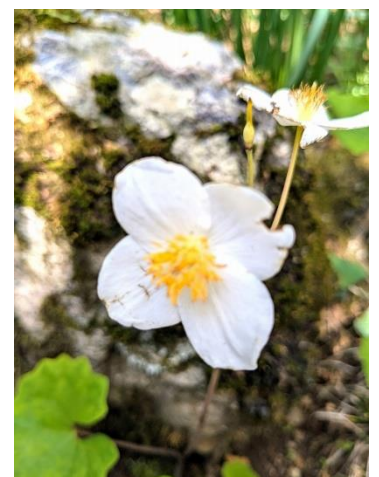
<即清寺>



スズラン



タイツリソウ



シラユキゲシ

緑色の文字は常緑樹
茶色の文字は落葉樹



庭園に咲いているボタン、タイツリソウ（別名ケマンソウ）、スズラン、シラユキゲシ、チョウジソウ、クレマチスなどを即清寺の若奥様が案内してくれた。

- ・山道を歩きながら解説を聞き、たくさんの発見があった。
- ・良いお天気に恵まれ、気持ちよく散策しながら多くの植物が観察できてよかった。
- ・今日一日で 50 種類以上の植物が観察でき、すごいと感じた。

A group of eight people, four men and four women, are posing for a group photo on a paved stone path in a forest. They are arranged in two rows, with four people standing in the back and four sitting or kneeling in the front. Most of them are wearing hats and outdoor clothing like vests and long-sleeved shirts. The background features tall, slender pine trees and a view of distant mountains under a blue sky with scattered clouds. The path they are on is made of rectangular stone tiles and is bordered by a low stone wall.